

平成 29 年度第 1 回扶桑町総合教育会議・議事録

名 称	平成 29 年度第 1 回扶桑町総合教育会議
日 時	平成 29 年 5 月 10 日（水）午前 10 時 00 分から 11 時 00 分
場 所	扶桑町役場 2 階 第 1 会議室
出席者	千田町長 中島教育長 松山教育長職務代理者 加藤教育委員 千田教育委員 加藤教育次長 尾関学校教育課長 山田学校教育課指導主事 紀 平生涯学習課長 大脇文化会館長 千田健康福祉部長 渡邊福祉 児童課長 事務局 鯖瀬総務部長 北折政策調整課長 兼松主幹 松井主査 傍聴者 なし
議 題	1. あいさつ 2. 協議事項 （1）土曜教室について （2）今後の子育て支援について 3. その他
内 容	1. あいさつ （町長） 昨年度から扶桑町では「ふそう土曜教室」が始まりまして、昨年の総合教育会議では、土曜教室の応募状況や現状などの話をしましたが、ちょうど一年を迎え、それを踏まえ今年度の状況についての説明と当町の子育て支援に係る政策を説明させていただきたいと考えております。皆様の忌憚のないご意見をいただき進めて参りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。 2. 協議事項 （1）土曜教室について （議長） 協議事項に移ります。（1）土曜教室について、事務局説明をお願いします。 （政策調整課長） 土曜教室について説明させていただきます。3 枚目、4 枚目に資

料を付けておりますが、簡単に概要を説明いたします。土曜教室は学習する機会を増やす、あるいは学習する習慣を身につけることを目的に行っております。対象は小学校3年生から6年生まで。科目は算数に限っています。開催日は夏休みなどの長期休暇を除く毎月第2、第4土曜日の2回で1回2時間を1クールとして行っております。今年度は先月の4月22日が最初の土曜教室ということで開催しております。指導者は教員OBを配置し学校で使用する教科書、計算ドリルを利用し、算数の補充学習を行っております。補充学習と言いますのは最低基準の学習内容をマスターできるようにするため、「わからない」「できない」子どもを「わかる」「できる」の状況まで高めるということで、こちらを補充学習という位置づけで行っております。申込み方法は3月中旬に各小学校を通じ、申込みを受け付けております。受講者の決定は、申込み児童の学習状況や就学援助受給の状況を考慮して4月上旬に決定しております。先ほどの資料の4枚目、土曜教室の応募及び決定状況ということで、各学校の応募人数と決定人数を記載しておりますが、全体で151人から応募がありまして、定員が80人です。今年度は定員より少しオーバーしております88人を参加者と決定しております。概要については以上です。

(議長)

ただ今、事務局から説明がありましたが、土曜教室につきまして、ご質問や、ご意見があればお伺いしたいと思います。いかがでしょうか？

(教育長)

昨年一年間、土曜教室を行って、どうだったかというのは何かありますか。

(学校教育課長)

土曜教室につきましては、保護者の方にアンケートを採らせていただいております。その結果の中で、大変有意義な結果がでてきましたと、子どもについても楽しく通うことができましたというのがアンケート結果として6割近くの方から出ておりますので、子どもの学習面におきましても、効果が出たものと思っております。

(教育長)

子どもの貧困についても考慮されたのか、実態はどうだったのかお聞きします。

(教育次長)

去年、今年も併せまして応募があった就学援助対象者につきましては、全部対象で参加していただいています。

(教育長)

そうすると子ども貧困についてはクリアしているということですね。

(千田委員)

成績アップはされたということですか。

(教育次長)

保護者や、子ども達のアンケートの結果を見ますと、「わかるようになった。」「100点取れるようになった。」というのがありますので、かなりの効果があったのではないかと思います。

(議長)

学校のテストとして、それはいいことなのかもしれませんが、教育という面ではどうなのでしょう。

(教育長)

子どもたちとしては勉強するのであれば、分かるようになりたい、分かりたい。体育だったら、跳び箱を跳べるようになりたい。そして跳べるようになったら、ものすごく嬉しい訳で、それが自信に繋がります。分かるということは、勉強をもっとやってみようかとなり、その子のための手法としては良かったかなと思います。やはりより分かりたい、それが分かるようになれば、次はという意欲が出てくるようになると、それは良い教育効果だと思います。

(教育長職務代理者)

学校において、決定人数が違います。例えば柏森だと今年度26人、高雄だと33人。こういうのはやはり成績によって配置するという事になっています。

(教育次長)

対象が3年生から6年生ということでやっていますので、人数配分は全校のうち3年生から6年生が何人、その比率に対して各学校毎に配分し、計画しています。

(教育長職務代理者)

例えば、柏森が30人、高雄が20人だった場合に、学校の評価の基準は一緒ですから、柏森の方に指導員を多く配置するということはできるのでしょうか。

(教育次長)

やり方だけですので、そういうのはどういう風にでもなるかと思いますが、計画の段階ではやはり皆平等というのがありますので、人数が多い学校はそれだけ子どもの人数が多いですから、対象人数が多いので、同じ人数でいくと人数の少ない学校は競争率が低くなりますので、受けることができます。人数の多い学校は競争率が高くなりますので受けたいけれども受けることができないということではいけないので、倍率は同じくらいの倍率にして計画をしているので、去年も今年も同じような考え方でやっております。ただ、同じ成績でこの子は入れて、この子は入れないということがあってはいけないので、同じ成績であれば入れるなら入れる、入れないなら入れないという調整をしまして定員より8人オーバーという人数になっています。できるだけ皆さん平等になるようにということを心がけて選定はさせていただいています。

(教育長職務代理者)

小学6年と中学3年に全国統一テストがありますね。そういうので見ますと、全体的に平均が上がった方がよいので同じようなレベルがよいのではないかと思うので今お聞きした次第です。やはり数学は特に基本を知っていないとどうしてもできませんから。

(加藤委員)

対象が小学校3年生から6年生ということで考えてみると、算数はどの子も同じ段階で躓くということは考えられない。それぞれ顔が違うように躓きの箇所が違うと思います。例えば小学校に入

って最初に足し算引き算をする。そこで躓いている人も中にはいるかもしれない。大きくはやはり小学校2年生でやる掛け算ですね。九九で、覚えたつもりで覚えていない。それが定着していないから小学校高学年になって、どうしてこんな答えが出るのかという時に九九自体が間違っているという躓きがあるという人もいるなということを思います。それから、小学校高学年くらいになりますと、特に躓くというのは分数の計算です。例えば2分の1足す3分の1はという時に、分母と分子を全部加えて5分の2という風に簡単に考えてしまう。分数の計算をこういう風にやらなければならないという仕組みというものをまず正してやってやることによって分数の足し算引き算掛け算割り算に発展していくなということを思うのですけれども、開いてみて実際にここで教えてもらう先生に個々に働きかけをしてもらうと、この子は九九で躓いているのだとか、この子はこんなところで躓いているんだという状況がやっぱり蓋を開けてみないと分からないという風に思う訳です。ふそう土曜教室の良さというのは分からないからちっとも面白くないということになるのが、少しでも分かるようになる。そしてできた喜びというのが順番に先生に教えてもらうこういう機会を得て、勉強していくという中で自信を取り戻しながら、やってよかったなあとか分かるということは凄いことだなあということに繋がると思いますので、是非、このふそう土曜教室というのを発展的に捉えまして、協力してやっていただくといいという風に私は思います。

(議長)

ありがとうございます。例えば算数に関していえば、どの年代までにやっていくというのが文科省で決められているので致し方ない部分はあるけれども、ではどの年代まででやったらよいのかというのがあると思うのです。

(教育長)

加藤委員が仰ったように、躓くところはあって、その理解が頭の中で繋がらないところがあり、それがいろいろ個別に教えているとある時に急に分かる時があって、躓きが一気に取れるところがあるのです。その躓きを取ってやるということが私はいいかないと思います。それが3年生からやっていることは良かったなと思います。

(議長)

土曜教室は、現状を踏まえてやっていく分にはこういうやり方しかできないと思いますが、学問というのをやるのには時間が掛かっても良いような気がします。

(加藤委員)

小学校でやることはあらゆることの基礎基本段階ですから、足し算引き算割り算掛け算という、その本当の基礎基本のところで躓いたら一生ずっとついて回ると思うのです。小学校の高学年で体が大きくなっても躓いたところを持っている子は単純な計算ができない。でまた中学校に入って、中学校3年生になって受験勉強を頑張らないといけないという時になって数学をやると、どうしてこんなところで間違えるのかというところを見ていると、九九が出来ていないと、そこからやらないといけないということがあります。

(教育長職務代理者)

昨日か一昨日、小学生の子に国語と数学を2週間で100点取らせるというテレビ番組がありました。目標が100点満点で、算数だけで言いますと一人の子は20点が40点に、もう一人の子は40点が100点を取ったんです。その2週間で教えるという教え方を見てましたら、加藤先生が仰ったように九九が一番問題になったのです。九九ができるようになったら殆ど倍点数が取れるようになったのです。その先生の教え方もやはり子どもに楽しくさせる、勉強が面白くさせるようにして教えるのだと言ってやっていました。国語はさすがに2人の子がいたのですが100点を取ることはできませんでした。最高点は80点。50点が80点になったのが最高でした。ですが、算数は基本を覚えれば取れるということです。それがやはり小学校の子は理解すると楽しくなるんです。私は途中から見たのですが、九九を教える時に確かインド式の九九を教えていました。私もそれははっきり知らないのですが19まではできると言っていました。やはり基本を教えると子どもは特に算数なんかは極端に伸びるのではないかと思います。

(教育長)

算数、数学を学問として考えていると本当に計算とかそういうことになるので、今はもっと生活とかに密着して例えばりんごを買った時におつりはいくらだとか、そういう風に自分が生活の中で使えるようにやっていこうと、生活の中でしていくという生きて働く学問という流れがあるのではないかという気がします。

(議長)

やはり元のところを教えないと難しいと思うのです。何でそうなるのかという。間違えて覚えてしまったら将来大変なことになる。基本的に大元の元。ではどの段階でそれをやったらよいのかなというのはあるのですよね。個人的にはそう思います。話は尽きませんので、土曜教室の状況としては、そういう風にやっていて、今年度の現状は説明したということです。これで土曜教室は続けていくということです。

(教育長)

私は、土曜教室を廻ったのですが、山名学供にボランティアという人が来ていて、子どもたちのために無料奉仕で来て頂いている。そういう人が去年も2～3人いらっしゃったので、今年も来て頂いて、ありがとうございますと声を掛けました。

(議長)

そういう人たちが、手伝っていただけると言うのは本当にありがたいことで、やはりそういう風な仕組みを作り上げる環境を作るようにするのが我々行政かもしれません。土曜教室について他にご意見ないようでしたらこれで終了します。それではご意見ないようですので、土曜教室についてはここまでとさせていただきます。2番目の今後の子育て支援ということで事務局の方から説明をさせていただきます。

(2) 今後の子育て支援について

(政策調整課長)

町長の目指すまちづくりとして、子育て支援が最優先課題となっています。また、第4次扶桑町総合計画 後期基本計画においても、子育て支援は重要課題となっています。このことから、子育て支援は、ハード面ではスピード感を持って、ソフト面ではニーズに対応したものでなければならないと考えています。

具体施策として、放課後子ども広場事業、放課後児童クラブ事業、児童館整備事業を進めて参ります。

まず、放課後子ども広場事業について、簡単に説明いたします。放課後子ども広場事業は、生涯学習課の担当で、対象児童を小学校1・2年生とし、学校の空き教室、公民館、体育館において実施しています。開設時間は、下校時から午後5時まで、土日祝日、長期休暇などは休みとなります。本年度、扶桑東放課後子ども広場を増床いたしました。平成29年4月21日現在の登録者数は304人となっています。

次に放課後児童クラブ事業について、説明をします。放課後児童クラブ事業は、福祉児童課が担当しており、現在、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校1年生から4年生までを対象としています。開設は、下校時から午後7時までで、長期休暇などにも開設しています。高雄・扶桑東・山名・斉藤・柏森・柏森中央の6カ所に放課後児童クラブがあり、定員総数は、380名となっています。放課後児童クラブについては、高雄、扶桑東、山名の各小学校敷地内に、専用棟を建設するため、本年度実施設計を行い、平成30年度建築、平成31年度供用開始の予定をしています。

最後に児童館整備事業について、説明をします。本町が建設を予定します児童館は、多機能児童館です。多機能とは、放課後児童クラブを併設したり、農業体験ができたり、その他ニーズのあるものを取り入れるというものです。本年度、ニーズ把握のための業務委託と基本設計を行います。平成30年度には実施設計、平成31年度建築、平成32年度供用開始という予定をしています。今後の子育て支援につきまして、簡単に説明をさせていただきました。現在、国におきましても子ども子育て支援については、厚生労働省、文部科学省、内閣府が連携して推進しています。

川上である国が連携し出したことにより、川中である都道府県、川下である市町村も福祉、教育、総務が連携していくことが今後の子育て支援について、大事であると考えていますし、子ども子育て支援施策は、千田町長が進めるまちづくりの一丁目一番地ですので、政策調整課が先頭に立ち進めてまいりたいと考えております。

(議長)

ただ今、子育て支援に関しまして具体的に3つ説明いたしました。

それぞれどの分野でも結構でございますが、委員の皆様ご意見、ご質問あればお願いいたします。内容でもハード面でも構いません。放課後児童クラブは実施設計で、来年から既にやっていかなければならないですから。

(教育長)

放課後児童クラブを1年生から6年生までやるということだと、実際何人くらいの希望があるのかなと思います。例えば今年、あったらどうなのだろうなと思います。そういうことは調べていますか。

(福祉児童課長)

高学年になってくればなってくるほど、習い事などが増えますので、実際に5、6年の需要というのは在籍数の6%程度で見込んでいます。その見込を出しておりますので、各児童クラブで高雄で長期全体で140名程度、扶桑東で長期全体で86名程度、山名で長期全体で105名程度、柏森で長期全体で223名程度という数字になっておりますので、かなりの人数です。

(教育長)

放課後こども広場を生涯学習課がやっているが、それも申込みがあった人を毎日受け入れしていると、とても人数がオーバーするので、曜日、例えば今言われた習い事のある日は来ないので、曜日で決めて月曜日はこの子、火曜日はこの子という風に、家庭の都合もあるので申し込んだ人が全部毎日来るわけではないので。

(福祉児童課長)

放課後児童クラブも出席率は6割、7割弱くらいです。申し込んだ人が毎日必ず来ている訳ではないということです。

(教育長職務代理者)

この放課後児童クラブの専用棟についてですが、これは学校の校庭に建てられるということで、高雄と山名と扶桑東、3箇所になっていますが、これは運動場のスペースというのはあるのかなと思いますが。

(政策調整課長)

現在、現場に入りまして学校にも確認しまして、支障のない場所、そちらで場所を選定しております。

(教育長職務代理者)

運動場が狭くなるのかなと思ったのですが。

(総務部長)

当然、面積は削られます。が、最低限支障の無い範囲で今調整がほぼ終わっているような状況です。

(議長)

運動場の必要面積がありますので、それは削ることはできないので。そういうことから柏森小学校は運動場の中に建設することができません。児童が多いので、運動場の面積も広く必要になってきます。そうすると放課後児童クラブを利用する人数から言っても学校の敷地内に作るのとは不可能で、結果的に児童館の中でやっていくことになろうかという計画で今のところはいる訳です。ハード面のことですが、できるだけ木を多く使った建物にしていきたいと思っています。そういう計画で進めているというのが現状です。委員の方で聞きたいことは何かありますか。

(加藤委員)

一ついいですか。それぞれの専用棟を作るということですが、それぞれの規模が違うので専用棟自体もそれぞれの規模に合わせて大きい小さいというのはあるのですね。

(政策調整課長)

はい、あります。

(加藤委員)

先ほどの対象人数がこれだけだというようなことに対してのこれだけだと。

(政策調整課長)

扶桑東と山名はほぼ同程度の規模になります。高雄につきましては、人数の関係上これより部屋数が一つ増えるという形で計画しております。あと柏森につきましては、今議長から話しがあり

ましたように多機能児童館の方で検討しておりますので、今後部屋数等は検討していきたいという風に考えております。

(議長)

多機能児童館だけは1年遅れます。現状の学供で1年実施することになります。ハード面についてはそういうことです。

(教育長職務代理者)

ソフト面になってきますが、専用棟は学校にできるということは学校で管理するということですか。

(政策調整課長)

町で管理することを考えております。

(教育長職務代理者)

柏森が他でということになってきましたので、管理がどういうふうかなと思いました。

(議長)

学校の中にありますから、学校と協力してやっていかなければと思います。中にいるのは児童ですから。

(教育長職務代理者)

専用棟の建物が町の方の管理ですと、先生の多忙解消にもなるのかなと、管理の面で。

(加藤委員)

学校は地元の方が体育館を使われたりすることもあるので、そういう時に使われる時に先生が管理をしているのですか。

(学校教育課長)

学校開放の時はそれぞれの利用者が鍵を持って開け閉めしています。

(教育長職務代理者)

学校は特に先生が残ってやるということはないのですか。

(学校教育課長)

ありません。

(議長)

放課後児童クラブは5年生6年生が増えることで、学供は現在で満杯状態ですので、そこに5年生6年生が増えれば、溢れてしまうこととなりますので、それも学校の中でやるしかない、いろいろ当たってみましたが、外にも適切な施設がありませんし、特に柏森小学校についてはいろいろ検討しましたが、検討した時点におきましては児童館を設置して児童館の中でやるしかないなどということになります。必ずそうするという話ではないですが、今の段階ではそうしていくという方向では行政としては考えていません。ただ、内容につきましては、検討は具体的にはされていません。放課後児童クラブにつきましては、学供でやっているのをそのまま場所が変わることと6年生までになるということですので、あまり心配はありませんが、後で作られる児童館は初めての事業ですので、それに備えてやっていかなければいけないなとは思っているところです。

(教育長)

町長が子どものために政策をまずやっていこうという話を聞いてまして、子どもの居場所作りを最初にこうやっていただけるので子どもたちにとってまた親たちにとっても大変ありがたいなと思っておりますし、やはり学校の中であれば迎えに来た親も安心できるなということを思います。柏森は無理ということになりますが、将来を担う子どもたちがやはり住みやすいように、過ごしやすいように、勉強しやすいように、居やすいようにということで大変早くやっていただいたということで大変よかったなと思います。

(議長)

放課後子どもクラブに関しては国が6年生までと言った時点でそうやって決まってしまうています。児童館もそういう流れのなかの一つ、児童館事業としてもやらなければならない時期に来ていましたし、そういう流れの中でやっていかなければならないことだと思っています。全般的にはハード面につきましてはできるだ

け木を使用した建物にしていきたいという願いがあります。暖かみがあるというふうで、床もフローリングでやっていききたいなどは思っています。あと、多機能で分からない部分は、農業とありますけれども、ちょっとした農園みたいなものを作りまして、そこに元気なおじいさんおばあさんと子どもたちが一緒に作物を作ることができる。そういうところで一緒にやれるという仕組みを作っていききたいなと思っております。どういう形になるか分かりませんが、隣には万が一の災害に備えたことを考え、特に乳幼児の子どもに授乳をする方が来てここで安心して授乳できるような場所、子どもに関する備品の備蓄であるとか、ということで完備していききたいなと思っております。避難所では子どもが泣いたり、授乳をする時の環境が整わないというのがありますので、避難所を利用しないに越したことはないのですが、万が一の時のためです。普段は、そこは閉めておくのかと言えば、その必要はありませんので、いろいろな使い方があると思いますので、使えばいいと思います。多機能というのはそういう部分を含めたことで多機能と。児童館事業は児童館事業とさらにそれにプラスそういうのをやっていくといくことで多機能と言う言葉を使わせていただいています。漠然としたものは今申し上げたものですが、具体的なものとしては、またこれから進めていくということになります。他はよろしいですか。それでは（２）の今後の子育て支援についてはこれで終わらせていただきます。

3. その他

（議長）

本日の協議事項としては（１）、（２）ございまして、その他として何か事務局からありますか。

（政策調整課長）

特にありません。

（議長）

委員の皆様はその他として何かございますか。

（加藤委員）

折角の機会ですので、お願いしたいことがございます。今、教員の多忙化が言われていて、いろいろなところで見直しをされているのですが、それと関連して、扶桑町は小さな町ですが、扶桑町

には指導主事が1名ということで、朝早くから夜遅くまで一人で
てんでこ舞いし、超多忙化になっているというのが、ここ何年来
ずっとそうだというように聞いています。それは大変だというこ
とで、先日ある会議で隣に岩倉の指導主事の方がいらっしゃいま
したので、その方に話を聞いたら、岩倉は学校数が7で、扶桑
町は6ということで、岩倉は指導主事が2名いらっしゃる。市町
の規模が少し大きくても少し小さくてもやらなければならないこ
とは同程度あるので、一人というのは本当に大変であるというの
は自分自身で感じる訳です。ですから何とか、扶桑町として複数
になるようお願いできないかなというように思う訳ですが、考
えてみれば学校教育の要というのが指導主事という要職にあるの
で、このような超多忙化の中でゆとりのある教育を進めるという
のは中々難しいと思いますし、発想的にも非常に難しいと思いま
す。ですから忙しさが学校教育に支障を来すという可能性も出て
きますし、やはり未来ある子どもたちのこれからの広がりのため
にも、どうしても指導主事が複数いるということが必要不可欠か
なということも思いますので、是非何とか、すぐにはできないに
しても複数になるような取り組みをお願いしたいなということ
を思ってお話をさせていただきました。どうぞよろしくお願いま
す。

(議長)

はい。今、この場で答えられることではございませんので、検討
課題ということで進めていきたいと思えます。では、ありがとう
ございました。ただ今の意見等含めまして重要項目であるとか緊
急事態等随時総合教育会議を開催いたしまして、協議調整をして
いきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたし
ます。本日の協議事項については全て終了いたしましたので、議
長としてはこの席を降りさせていただきますので後は事務局の方
でお願いします。

(総務部長)

それでは以上をもちまして平成29年度第1回の扶桑町総合教育
会議を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございます。

【午前11時00分終了】

